

第2回次期総合振興計画（区の将来像）に係る浦和区検討懇話会 議事要旨

開催日時：2019年1月23日（水）14:00～15:45

開催会場：さいたま市浦和区役所 仮配置棟1階多目的室

出席者（懇話会委員）：

青少年育成さいたま市民会議浦和区連絡会	池ノ上 登 氏
さいたま市浦和商店会連合会	市川 淳平 氏
さいたま市交通安全保護者の会（母の会）浦和支部	遠藤 有紀子 氏
協同組合浦和のうなぎを育てる会	大森 好治 氏
さいたま市PTA協議会浦和区連合会	軽谷 千陽子 氏
NPO 法人 Arts&Health さいたま	菊地 順子 氏
浦和区岸・神明地区社会福祉協議会	佐藤 健一 氏
さいたま市浦和区老人クラブ連合会	高桑 稔 氏
さいたま市浦和区民生委員児童委員協議会	並木 恵美子 氏
NPO 法人 Art Beat Heart	日榮 貴子 氏
さいたま市浦和区自治会連合会	藤枝 陽子 氏
さいたま市環境美化会議浦和	丸山 繁子 氏

（事務局：さいたま市）：

浦和区役所：山岸区長／増田副区長／今井健康福祉部長／島崎総務課長／総務課員2名
都市経営戦略部：篠葉参与

欠席者（懇話会委員）：

公益社団法人埼玉中央青年会議所	池上 力哉 氏
さいたま商工会議所	関口 聡子 氏
浦和レッドダイヤモンド株式会社	畑中 隆一 氏

議題及び公開又は非公開：（議題）意見交換：浦和区の将来像改定素案たたき台について
（公開又は非公開の別）公開

傍聴者の数：0人

審議した内容：さいたま市次期総合振興計画の策定に向けた検討に伴う浦和区の将来像について

1 開会

2 出席者紹介

初参加の日榮委員及び丸山委員より自己紹介があった。

3 意見交換

浦和区の将来像改定素案たたき台について

各委員より、上記議題について、次のとおり意見及び感想を述べた。

・この会の位置づけは如何。

市

・区の将来像を改定するにあたり、各種団体から推薦された委員の方々に、改定についてのご意見を伺う場。意見集約の場ではない。市民ワークショップやこの懇話会、タウンミーティング、市民意識調査等を通じ、広く意見を集約して反映させることが目的。

・各会から選ばれた人たちが出てきているので、この懇話会での意見は重要だと考えるが、この会の落としどころは如何。

市

・学識経験者も含め構成される市の審議会にて、局で行っている事業に関する目標や達成指標や、区の将来像についても審議頂いた上で、パブリックコメントを通じて市民から意見を頂くプロセスを経て、最終的に議会に諮る。落としどころとしては、案を作ってもらい、次の会における審議の材料とすること。

・まちづくりのポイントとして、「鉄道を挟んだ東西連携による一体的なまちづくり」「駅周辺などにぎわいの拠点や商店街」とあるが、区はどういった商店街を目指してこのタイトルとしたのか。

賑わいのある商店街として、若者や外国人を対象としているのか、そうであればまちづくりもだいぶ変わってくる。浦和区の商店街としてどういった方向に進めていくのか。道路や街灯整備等も進めていくのか。

市

・この場では、このような商店街にして欲しいという意見を出して頂きたい。

・商店街を作るのは、商店の個々の人が何を作るかによる。歓迎されない飲食店が入ってくることもある。人工的に作れないが、その特徴に応じてまちづくりを進めていくことになる。数十年前には、浦和には80くらいの商店街があったが、現在は50程度。駅から遠いところが難しい。テレビで放映されていたのだが、深谷や商店街のない本庄では、個々の店を商工会議所がつなぎとめる役割を果たしている。個々の店をどうつなぎとめたらいいのか。区の地域商工室は窓口ではあるが、話し合いの場を設ける点について「任意である」というスタンスであり、区や市とどのように話をしていくのが難しい。

・浦和では、頑張っている商店街が少なくなっている。イトーヨーカ堂の周辺くらいしか、人の多さを感じられない。昔なら北浦和駅前の平和通り等がにぎわっていた。今の商店街では、若者には飲食店の人気が高い。そこに昔ながらの魚屋等が加わるような形がよい。

岸・神明地区は商店がなくて、今月末に唯一のスーパーであったライフもなくなる。坂の多い地区なので買い物がしづらく、個々の商店が復活してくれればよいのだが。若い人たちの商店街づくりを考えていきたい。

・今のような意見を踏まえ、この会は市議会を動かすことができるのか。

・自分はそこまでは考えていない。

・このような会議には成果が必要。できないものを議論しても仕方がない。

・自分は自分の意見を述べているだけ。このような課題があることを次世代へつなげたい。

・このような民意が出たということを議会に上げることができるのか。

・出席者各位に、地域へ持ち帰ってもらえれば。

・ある町では、新しい店が出店し、人気があることから行列ができるが、そうするとその近隣の他店には客は入らない状況がある。そのようなことを踏まえて、入る商店をどこにするかを考える必要がある。

・自分は北浦和のイオン周辺の商店街そばにおり、ここは貸店舗が多いが、クリニック関係ばかりとなっている。東京等の栄えている商店街について聞くと、自分の商売だけでなく、互いに宣伝し合っているという。また、様々なイベントも実施している。外から来た立場で浦和区の商店街について言えば、殿様商売と感じていた。仲間意識で盛り

上げていかないと、より衰退していきだろう。

- ・確かに殿様商売だったかもしれない。

- ・自分は浦和駅東口で競馬場に通じる前地通りのそばに住んでいる。昔は競馬場勤めの女性等で賑わっていた。以前はマルフクというチェーン店が出店する際に反対運動があったが、現在はそこのおかげで何とか賑わいが一定保たれている状況。廃業した店が復活することはない。跡継ぎはサラリーマンになった人が殆ど。

賑わいがあったあの頃が懐かしい。町おこしというと、スターを作って成功しているように見えているが、継続するのかな。うちの近隣でも SNS で人気のうなぎ屋があり、若い客は多いが、地元の人は行かない。

昔と違い、商店会長、自治会長の担い手も減ってしまった。

なくなった店には復活してもらいたい思いはある。

- ・板橋の商店街が脚光を浴びているが、そのようなものを参考にすることも必要ではないか。

市

- ・素案の中に「商店街の賑わい」といった項目がないと、やや関連の薄いご意見になってしまうように思う。

- ・意見を吸い上げる場という理解でよいか。

市

- ・これは基本構想であり基本計画である。その先の実施計画の中で、どのような項目を活かしていくかという話になる。

- ・資料 2-4 に「安全・安心」とある。幸いこの近隣には反社会的勢力や大きな宗教団体の事務所は少ない。小学校の登下校時に立っていると、横断歩道や一時停止線が薄くて見えないのが気になる。皆さんはどうか。

- ・交通安全保護者の会に参加して、そのような目で街を見るようになった。各学校 PTA で安心安全マップを作り、通学路の見回りを行っているが、そこに参加するのは決まったメンバー。例えばガードレールがめくれている箇所の情報等、くらし応援室に一報するが、一般の市民は連絡先が分からない。つまり市民と役所の距離がある。区民皆が安全・安心に取り組むような仕組みが欲しい。確か千葉の方では、危険個所を見つけた市民が写真を投稿すると、すぐにパトロール隊が出向く仕組みがあるようだ。このような通報できる仕組みがあると、

交通だけでなく、犯罪や迷い人の情報等も共有できる。それには、ICT を活用するのがよい。若い人が何か行くと、同世代に加え、シニア層も気になって出向くようになる。商店街の空き店舗にたまり場を作って、イベント等の場づくりをすれば、人が集まってくるようになる。どのような形で商店街を残したいか、地元の意見を反映できればよい。

- ・谷中にたまに行くが、外国人、若い人も多い。雰囲気づくりが大事。人を呼ぶ意識を商店街が持たないと。浦和の商店街には、自店の利益のみを考えている面がある。栄えているところはお互い助け合う努力が見られる。

- ・商店街の中には、所謂歯抜けになっているところもあり、協力しようにも難しいのが実情である。チェーン店の場合は、店長の人事交代もあるし。

- ・チェーン店の場合は地域に対する意識は薄くなる。

- ・駅からの距離や大型スーパーの有無で、廃業の度合いも違っている。

また、ネット販売で小売店も厳しくなっている。世の中の流れの中で商店街は維持ができなくなっている。谷中や十条、駒込あたりの下町は、近隣住民は車を持っていない人も多いことから、大型スーパーは成り立ちにくい。

浦和は、道路毎に商店街が分断されているのが特徴だが、広域的に取り組みを行う必要がある。秩父はまとまった形で取り組んでいる。

- ・ここで出た意見は、どのように取り上げられ、反映されるものか。

市

- ・ここで出た意見は、この後行われる審議会で検討頂くことになっている。その後パブリックコメントも出される。このようにどんどん手が加わっていくことから、本日も提示しているものは最終形ではない。

- ・安全安心について言えば、歩道の悪さは気になる。これを管轄しているのは市か区か。

市

- ・区の将来像となっているが、この中には区の予算で対応するもの、本庁の予算で対応するものがある。道路整備については区では該当予算がないので、本庁が対応する。

- ・この懇話会の位置づけは、区のバックアップをする会、ということでもいいと思う。

市

- ・区の望んでいる将来像を提示した上で、本庁各局が具体の施策を進めていく。
- ・区長が議会において自らの言葉で言いにくいことについて、この懇話会は、各団体の意見を通じて、いわばバックアップすることかと思う。

市

・区でも、様々な意見を聴く場を設け、区長から本庁へ要望しているところ。この将来像にない事項でもきちんと要望はしている。一方で、ここに記載されていることは、議会の承認を得て施策を作っていく。ぜひご意見を仰っていただきたい。

・この資料の4番（子育て）などは非常に重要だが、この場で強く述べたことが議会等に反映されるものか。

市

・総合振興計画に記載されているものについては、進行管理をしており、子育てに関する具体の取り組み等はお示ししているところ。

- ・子育て施策を充実させていけば、若者が浦和にどんどん流入してくれる。
- ・この会は将来像なので、現時点の問題を取り上げて将来を背負う若者たちに知ってもらうということ。子育ても昔と今で、大きく変わってきている。議会で取り上げられるのは難しいかも知れない。

・自分は83歳であるが、若者の声は大事にしないといけない。

・浦和区で一番大きなイベントは区民まつりということだが、浦和区というブランド力が高いのか、イベントが固い印象がある。格式張っているというか、他区とも、また他イベントとも違う。

・自分は区民まつりの初期に関わっていた。あれは区民が主体で、区は補助している。やろうと思えば自由度は高いものができる。かつてスーパーカーの展示を行った際には、相当の賑わいであった。

・うちの方は調神社が会場なので、固いかなというようにも思う。一大イベントなので、各地域で催しを考えていく必要があり、そこから世代交流も生まれる。

・調神社の会場は確かに他の会場と違う印象があった。若者たちがラフに参加できるようになることを期待したい。

・区民まつりは、もともと「区民の集い」が始まり。調神社はそういうものなのかな。

・調神社の会場は、音楽祭を続けてきた。今までは飲食がなく、昨年初めてキッチンカーを出したが、好評だった。

・若者が賛同してくれないと。

・30代の人やPTAの人達が牽引してくれれば、助かる。

・若者に実行委員長等を任せた方が集客できる。

・年配になるとリスクを先に考えてしまいがち。若者に頑張ってもらいたい。

・北海道では、よさこいを大学生に任せ、集客できるようになった。全部ということではないが、任せられる部分は若者に任せたい。

・自分は浦和育ちだが、子どもの頃、活気のあった商店街で買い食いをしたような、楽しい思い出や郷土愛を持っている。今の浦和はマンションが多く、新たな住民が増えている。昔からの浦和を知らない方も増えているが、その子どもたちが浦和で育って楽しい思い出を持って、大人になってもまた浦和に住む、そのような循環のある浦和にしていければ。若者の店を入れて、人が集まるようになれば、将来像にある「一体感のあるまちづくり」や「多様な交流のあるコミュニティ」に繋がり、郷土愛が持てるようなまちになっていく。

・若者に参加してもらうのはよいが、いきなり「やって」とは言えない。若者に企画等をやってもらうような、場づくりをお願いしたい。

・自分の近所では、ハロウィーンで、商店街で園児にお菓子をあげる。美容学校の生徒がボランティアで園児に衣装や化粧の世話をしてくれている。近くにそのような施設等があれば、彼らも巻き込んでいくのも一つの方法。

集合住宅が中心でよそから来た人も多い地域なので、そうでないと、地域活動が行えない。若い父親たちの参加も大事。その促進に向けた努力も行っている。

- ・「わんぱくまつり」は盛り上がりのあるイベント。

- ・8月下旬に前地通りにおいて、「わんぱくまつり」といって、商店街で買い物をすると福引券を配り、持ってない人は券を買って、大人から子どもまで、ゲームや飲食を楽しめるイベントがある。市外に住む自分の子どもも、そのころの楽しい思い出を持っており、孫を連れて遊びに来る。いい意味で人寄せになってくれればよいイベント。

- ・コスタ・タワーには、商店会があるが今は力がないので、祭りをマンション住民と商店会が協力して行っている。それが一つの形になろう。衰退する商店会を住民が補っている。浦和と大宮の違いを言えば、浦和は住宅都市で駅近隣に戸建住宅がある。一方で大宮は商業都市で、戸建は15分くらい歩かないとない。利便性は浦和の方がいい。マンションが増えている浦和で、後背人口を支えるための商売のやり方が浦和の商店街のあり方としてあろう。

- ・マンションの組合とタイアップすることが大事かもしれない。よそから来た人に地域に入ってもらうのは難しいが、根気よくアプローチすることが必要。

- ・先日、「住みやすい、住み続けたい」ランキングが公表され、行政区の中で浦和区が最も高い数字だった。

市

- ・平成19年度から継続している市民意識調査で、18歳からの年齢層区分で見たもの。90.5%が浦和は住みやすいという結果。

- ・これを見ると、浦和区は将来性があると思う。浦和はいいところ。

- ・「まちづくりのポイント」のタイトルがもう少し短くてもよいということだが、これはどういうことか。

市

- ・前回そのようなご意見を頂き、修正したもの。

- ・ワークショップとは何か。

市

- ・市内在住の19歳～45歳の方を無作為に1万名抽出して、応募した中から100名を抽選で

選定した上で、区毎に班を作り、区のいいところや課題等を意見集約し、整理したもの。資料1の赤字が、ワークショップの意見。若者の意見も含まれる。

- ・何かの成果を挙げたいので、これをどうまとめるか。期待している。
- ・区から市に上げ、さらに議論して作り上げていくもの。
- ・前回参加した時に、「行政と住民の協働」という言葉に初めて触れた。この「協働」という言葉をさらにクローズアップして、場を作っていくことが、コミュニケーションだと思う。この言葉はいいと思う。

4 閉会